

教育相談分科会

授業場面における児童生徒の様子に応じた
指導・支援シートの開発

—生徒指導的視点から—



岩手大学大学院教育学研究科
子ども支援力開発プログラム 佐藤 和生

問題と目的：国の施策から

- 特別支援教育の推進についての通知：文部科学省(2007)
- 調査結果・協力者会議：文部科学省(2012)
- 障害者基本法の改正：内閣府(2011)
- 中央教育審議会報告(2012)…インクルーシブ教育システム構築
- 障害者権利条約の批准：内閣府(2014)
- 障害者差別解消法：内閣府(2016)…合理的配慮の法的義務など

- ①ニーズを把握し適切な指導及び必要な支援
- ②全ての学校(児童生徒)において実施
- ③児童生徒が示す困難に重点を置いた対応
- ④教育的配慮を必要としている多くの児童生徒
- ⑤指導方法についての理解が不十分の可能性
- ⑥特別支援教育の重要性、喫緊の課題

問題と目的：考察

問題の所在についての考察



- ①通常の学級における特別支援教育の重要性
- ②学習指導のみならず広い視点からの指導・支援
- ③現場教員の実践をまとめた研究
- ④児童生徒の様子に焦点をあてた指導・支援方法
- ⑤児童生徒の様子と指導・支援の適用関係
- ⑥教師のための指導・支援シートの開発

実践研究：研究1

予備調査

目的 暫定尺度作成のための項目収集
調査対象 岩手大学教職大学院生22名
(現職10名、学卒12名)
調査時期 2019年10月
調査内容 下記の項目について、自由記述で回答を求める。

- ①授業中に特別な指導・支援が必要だと感じた児童生徒の様子を具体的に教えてください。(何人思い浮かべても構いません。)
- ②授業中に特別な指導・支援が必要だと感じた児童生徒に対して、どのような指導・支援があると思いますか。自分で実際に行っていないか、見たり考えたりしたものでも構いません。具体的に教えてください。

本日の発表内容

- 1 問題と目的
 - (1) 国の施策から
 - (2) 先行研究から
- 2 実践研究について
 - (1) 研究の目的
 - (2) 研究1について
 - (3) 研究2について
 - (4) 指導・支援シート(Excel版)
 - (5) 総合的な考察
 - (6) 今後の課題



問題と目的：先行研究から

- 通常学級における学習支援の研究(立石ら)
- 発達障害のある生徒に対する支援の在り方についての研究(橋爪ら)
- 特別に支援を要する児童への支援に在り方についての研究(興津ら)
- 学級担任へのコンサルテーションの在り方についての研究(小林ら)
- 授業過程における教師の統制行動に関する実証的研究(山田)
- 不登校状態に有効な教師による指導・支援方法の研究(山本)

- ①状態を多面的に捉えているとはいいい難い
- ②経験的であり実証的でない
- ③実践や応用が容易でない
- ④状態に応じた指導・支援の適用関係

実践研究：研究の目的

授業場面において個々の教育的配慮が必要な児童生徒への有効な指導・支援方法を明らかにし、指導・支援シートを開発することを目的とする。

- ①教師が、授業においてどのような児童生徒に教育的配慮が必要であると感じているかを調査研究により明らかにし、測定尺度を作成する。
- ②それぞれの児童生徒に対して、初期においてどのような指導・支援が効果的であるかを調査研究により明らかにし、その妥当性を検証する。
- ③調査結果や実践の結果をもとに指導・支援シートを開発する。



実践研究：研究1

本調査

目的 授業における教育的配慮の必要感尺度を作成する。各特徴と指導・支援方法の適用関係を明らかにする。
調査対象 公立小中学校(小学校6校、中学校6校)
主幹教諭、指導教諭、教諭、講師
318名中241名から回答
(小学校：114名、中学校127名)
調査時期 2020年2月
調査内容 下記のような(概略)アンケートを行う。

- ①児童生徒の様子について…49項目、5件法
- ②指導・支援方法について…19のカテゴリー、4件法



アンケート



項目	1	2	3	4	5
1. 本人が主体的に学習活動を行っている	1	2	3	4	5
2. 本人が学習活動の進捗を確認している	1	2	3	4	5
3. 本人が学習活動の振り返りを行っている	1	2	3	4	5
4. 本人が学習活動の成果を発表している	1	2	3	4	5
5. 本人が学習活動の振り返りをしている	1	2	3	4	5
6. 本人が学習活動の振り返りをしている	1	2	3	4	5
7. 本人が学習活動の振り返りをしている	1	2	3	4	5
8. 本人が学習活動の振り返りをしている	1	2	3	4	5
9. 本人が学習活動の振り返りをしている	1	2	3	4	5
10. 本人が学習活動の振り返りをしている	1	2	3	4	5
11. 本人が学習活動の振り返りをしている	1	2	3	4	5
12. 本人が学習活動の振り返りをしている	1	2	3	4	5
13. 本人が学習活動の振り返りをしている	1	2	3	4	5
14. 本人が学習活動の振り返りをしている	1	2	3	4	5
15. 本人が学習活動の振り返りをしている	1	2	3	4	5
16. 本人が学習活動の振り返りをしている	1	2	3	4	5
17. 本人が学習活動の振り返りをしている	1	2	3	4	5
18. 本人が学習活動の振り返りをしている	1	2	3	4	5
19. 本人が学習活動の振り返りをしている	1	2	3	4	5
20. 本人が学習活動の振り返りをしている	1	2	3	4	5

授業場面における教育的配慮の必要感尺度

他者への配慮不足から周りの人への迷惑をかける言動が課題



他者配慮

やる気の有無に関わらず理解や表現の面が課題



理解表現

授業への心構えが原因で学習規律が乱れていることが課題



学習規律

感情コントロールができず状況に応じた言動ができないことが課題



自己制御

指導・支援の適用関係：重回帰分析結果一覧表

様子	小学生	中学生
他者配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●その場で毅然とした態度で指導する ●その場で諭すように指導する ●別の場で指導する ●言動が収まる、取り組むことを待つ ●他の子に注意をお願いする 	<ul style="list-style-type: none"> ●本人に応じた学習活動を全体で行う ●本人の行動を褒める ●その場で毅然とした態度で指導する ●その場で諭すように指導する ●別の場で指導する ●言動が収まる、取り組むことを待つ
理解表現	<ul style="list-style-type: none"> ●本人に応じた学習活動を全体で行う ●課題や問題が解決するよう言葉で支援 ●他の子に支援や配慮をお願いする ▲言動が収まる、取り組むことを待つ 	<ul style="list-style-type: none"> ▲教材等を関心が高まるよう工夫する ▲本人の行動を褒める ▲別の場で指導する ▲他の子に注意をお願いする
学習規律	<ul style="list-style-type: none"> ●その場で諭すように指導する ●別の場で指導する 	<ul style="list-style-type: none"> ●その場で毅然とした態度で指導する ▲指示内容が理解できるようにする ▲本人に応じた学習活動を全体で行う ▲本人の行動を褒める
自己制御	<ul style="list-style-type: none"> ●本人に応じた学習活動を全体で行う ●言動が収まる、取り組むことを待つ ●本人の判断を大切に ●他教員との連携を図る ▲他の子に注意をお願いする 	<ul style="list-style-type: none"> ●他教員との連携を図る

重回帰分析の考察（小学校）

他者配慮：その場または別の場で担任や他教員が直接指導・支援を行ったり、他の児童に注意をお願いしたりする。該当児童の言動をある程度受け流し様子を見る。

理解表現：該当児童の実態に合った学習活動を全体で行う。教師が机間指導等と一緒に解き方を考えたり、他の児童に支援や配慮をお願いしたりする個別の支援を行う。待つ指導・支援は効果が表れにくい。

学習規律：指導・支援をする際の言葉がけや、場所、タイミングに配慮する必要がある。

自己制御：本人の気持ちが落ち着くのを待ち行動目標などを選択させる指導・支援を行う。他教員と役割分担を行うなどの連携、その児童に合った学習活動を意図的に組み入れながら授業を行う。他の子に注意をお願いすることは、効果が表れにくい。

重回帰分析の考察（中学校）

他者配慮：該当生徒の言動をある程度受け流し様子を見ながら本人の努力を褒める。その場または別の場で本人に直接指導・支援にあたる。その場の状況や生徒や学級の実態に応じて、毅然と厳しく対応するか、諭すように対応するかを使い分けことが大切である。その生徒に合った学習活動を意図的に組み入れながら授業を行ったりすることで、効果が上がる。

理解表現：別の場で個別指導を行ったり、褒め言葉をかけたりすることよりも、全体の指導の中で実態を把握し、指導・支援を行う。

学習規律：本人への配慮よりも、その場で毅然と指導する。

自己制御：他の教員と役割分担を行い、連携を図りながら指導・支援を行う。



指導・支援の適用関係：カイ二乗検定結果一覧表

様子	小学生	中学生
他者配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●言動が収まる、取り組むことを待つ ●他教員との連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ●その場で毅然とした態度で指導する ●その場で諭すように指導する ●言動が収まる、取り組むことを待つ
理解表現	●本人に応じた内容・活動に変える	
学習規律	●別の場で指導する	
自己制御	<ul style="list-style-type: none"> ●授業のルールを意識させる ●言動が収まる、取り組むことを待つ ●本人の判断を大切に ●他教員との連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ●本人と個別の約束事をする ●言動が収まる、取り組むことを待つ ●他の子に注意をお願いする ●他教員との連携を図る

カイ二乗検定の考察（小学校）

他者配慮：該当児童の言動をある程度受け流し様子を見ながら、他教員に相談し協力をお願いする。

理解表現：本人の能力に合わせたり本人と相談したりしながら、その子に合った学習を行う。

学習規律：自分を冷静に振り返ることができるタイミングと場で指導・支援を行う。

自己制御：本人の気持ちが落ち着いている段階で、授業のルールを確認しながら、本人に行動目標などを選択させる指導・支援を行う。その際には、他の教員と役割分担を行うなど連携を図るとさらに効果が上がる。授業のルールについては、ルールを掲示するなど事前に確認しやすくする。



カイ二乗検定の考察（中学校）

他者配慮：該当生徒の言動をある程度受け流し様子を見ながら、その場で本人に直接指導・支援にあたる。その場の状況や生徒や学級の実態に応じて、毅然と厳しく対応するか、諭すように対応するかを使い分けことが大切である。

理解表現：中学生全体で有効な本人の行動を褒める、言葉によって支援、他教員との連携などの指導・支援を行いながら、その生徒に合った方法を見つけていく。

学習規律：中学生全体で有効な本人の行動を褒める、言葉によって支援、他教員との連携などの指導・支援を行いながら、その生徒に合った方法を見つけていく。

自己制御：本人の気持ちが落ち着いている段階で、他の教員と役割分担を行いながら、個別の約束事を確認するまたは、事前に約束事を決めておく指導・支援を行う。状況に応じて、生徒同士で注意することも有効である。

本調査

目的 分析により明らかにしたことをもとに、実践していただき、その結果を検証する。

実践対象 公立小学校学級担任6名

実践内容 本研究や指導・支援シート、結果等について説明し、それをもとに実践していただく。

検証方法 ①指導・支援の適用関係についての記述
②指導・支援シートについての記述

実施時期 2020年 9月～10月（6週間程度）

※ シートには、カイ二乗検定の結果を活用した。



結果と考察

【児童の様子と指導・支援の適用関係】

- 理解表現に課題がある児童に対しては、本人に合った学習内容・活動に変える指導・支援が有効であった。
- 自己制御に課題がある児童に対しては、本人の判断を大切にしている指導・支援が有効であった。
- その他の指導・支援については、児童によって効果が異なった。

【指導・支援シート】

- 児童の様子を点数化することで児童の様子を客観的に対策を考えることができた。
- シートが書きやすかった。
- 効果的であるとされる指導・支援が合う場合と合わない場合がある。



4つのうち複数の課題を抱える場合があることも要因？

適用関係の有効性が実証された指導・支援もあったが、児童によって異なるという結果もあった。そこで、シートに重回帰分析の結果も反映させ、指導・支援の幅を広げて活用しやすくする必要があると考えた。

R (Research) : 児童生徒の実態調査 (把握)

1. 児童がどのような様子であるかを確認する。

児童の氏名	1. 理解表現	2. 自己制御	3. 学習規律	4. 社会性
児童A	○	○	○	○
児童B	○	○	○	○
児童C	○	○	○	○
児童D	○	○	○	○
児童E	○	○	○	○
児童F	○	○	○	○
児童G	○	○	○	○
児童H	○	○	○	○
児童I	○	○	○	○
児童J	○	○	○	○
児童K	○	○	○	○
児童L	○	○	○	○
児童M	○	○	○	○
児童N	○	○	○	○
児童O	○	○	○	○
児童P	○	○	○	○
児童Q	○	○	○	○
児童R	○	○	○	○
児童S	○	○	○	○
児童T	○	○	○	○
児童U	○	○	○	○
児童V	○	○	○	○
児童W	○	○	○	○
児童X	○	○	○	○
児童Y	○	○	○	○
児童Z	○	○	○	○



P (Plan) : 指導・支援の計画

3. 指導・支援方法について確認する。

指導・支援の内容	具体的な指導・支援内容	本人	他者	効果
本人の行動を促す	本人の行動を促す	○	○	○
本人の行動を抑制する	本人の行動を抑制する	○	○	○
本人の行動を修正する	本人の行動を修正する	○	○	○
本人の行動を強化する	本人の行動を強化する	○	○	○
本人の行動を弱体化する	本人の行動を弱体化する	○	○	○
本人の行動を無視する	本人の行動を無視する	○	○	○
本人の行動を模倣する	本人の行動を模倣する	○	○	○
本人の行動を抑制する	本人の行動を抑制する	○	○	○
本人の行動を修正する	本人の行動を修正する	○	○	○
本人の行動を強化する	本人の行動を強化する	○	○	○
本人の行動を弱体化する	本人の行動を弱体化する	○	○	○
本人の行動を無視する	本人の行動を無視する	○	○	○
本人の行動を模倣する	本人の行動を模倣する	○	○	○

P (Plan) : 指導・支援の計画 D (Do) : 指導・支援の実践

4. 児童への指導・支援の計画を立て実践する。

5. 児童への指導・支援を評価し後に活かす。

C (Check) : 指導・支援の評価 A (Action) : 指導・支援の改善

6. 指導・支援の効果を確認する。

総合的な考察

授業場面において個々の教育的配慮が必要な児童生徒への有効な指導・支援方法を明らかにし、児童生徒の様子を多面的に捉え、実践や応用が容易な指導・支援方法を示唆することができた。

他者に迷惑をかける、かけないの視点で教育的配慮が必要かどうかを感じていると考えられる。

小中学校ともその場や別の場での指導、取組を待つ指導が有効だと考える傾向があり、これは課題と考えられる言動が起こってから対応しているとも考えられる。

今後の課題

指導・支援の有無の効果が教師の主観性が強いので、客観的に判断する基準を設定する必要がある。

指導・支援を行っていない場合の理由が明確になるようなアンケート内容を工夫していく必要がある。



引用文献

中央教育審議会 (2012) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進
橋爪順子・衣笠哲臣・谷尻治・武田徹郎 (2017) 発達障害のある生徒に対する支援の在り方についての質的研究
和歌山大学教職大学院紀要 学校教育実践研究 No. 2 2017
小林直子・上村恵津子 (2008) 通常の学級担任への具体的な教育的なコンサルテーションの在り方を求めてー通常学級に在籍し離席行動を繰り返す児童の事例を通してー
信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』No. 9, 2008
文部科学省初等中等教育局 (2007) 特別支援教育の推進について (通知)
文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2012) 通常学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果
興津富成・関戸英紀 (2007) 通常学級での授業参加に困難を示す児童への機能的アセスメントに基づいた支援
特殊教育学研究, 44 (5), 315-325, 2007
立石素之・浦澤正通・蔵永雄・伊藤公一・宮崎理恵・前田健一・宮谷真人・中條和夫・森田愛子・水口啓吾・綿中英穂 (2013) ワーキングメモリの小さい子どもに対する学習支援
一小学校4年国語科授業におけるマトリックス法の効果一
広島大学 学部・附属学校共同研究機構研究紀要 (第41号 2013. 3)
山田雅彦 (2006) 授業過程における教師の統制行動に関する実証的研究
一アフォーラス概念一を手がかりとして一
日本教育方法学会紀要『教育方法学研究』第32巻 (2006)
山本真 (2007) 不登校状態に有効な教師による支援方法 教育心理学研究, 2007, 55, 60-71